

義同廣韻引字林云、膺膂腸也、海外北經、無膺之國、為人無膺、郭璞曰、膺肥腸也、

〔伊呂波字類抄〕古體 人 膂コムラ 膂膂同

〔物類稱呼〕人倫 膂こむら 東國にてふくらばぎといふ、信濃にてたはらつぱきといふ、中國にてひなますぼといふ、讚岐にてすぼきといふ、伊豫にてふくらと云、

〔倭名類聚抄〕手足 跗 儀禮注云、跗方俱反、字亦作跗、足上也、和名阿奈比良。

〔箋注倭名類聚抄〕手足 玉篇跗、跗同、上、新撰字鏡、醫心方同訓、按阿奈比良、蓋足平之義、今俗呼阿之乃、古布、中、儀禮注十七卷、漢鄭玄撰、所引士葬禮注文、原書跗作跗、按說文、無跗、跗、有跗、云闌足也、

轉爲足上、故从足作跗、詩小雅釋文、柎亦作跗、是也、後人諧聲、又作跗也、

〔經穴纂要〕五 周身名位骨

敷釋骨曰、跗、内下爲骸骨、一名核骨、圖翼曰、足大指本節後、内側、圓骨、醫學綱要、曰、本節後約二寸、内踝前約三寸、如棗核、横于足、内踝赤、白肉際者是也、

〔伊呂波字類抄〕安人體 跗アノヒラ 跗作、跌足也、

〔古事記〕上 是以此二神天鳥御雷神、降到出雲國、伊那佐之小濱、而伊那佐三、拔十掬、劔逆刺、立于浪穗、

跌坐、其劔前問其大國主神言略下

〔古事記傳〕十四 跗坐は阿具美、韋氏チナと訓べし、志知阿具美と、打てふ言を添るも、よ書紀海神宮段

に、寛坐とあるをも、然訓り、阿具美は足、結と云ことにて、今俗に丈六かくと云坐樣なり、丈六

とは、丈六の佛像の跗坐より出たるなるべし、又是予郷の方言に、阿具美、韋と訓は、字にあたり、韋

は志理、字多、阿受、久美、は足組にて、阿具美にて、同じ、さて、跗坐は阿具美、韋と訓は、字にあたり、韋

なるべし、字書に、據物坐、日、跗坐、阿具美、敏、達、卷、に、跗坐、胡、床、を、著、て、膝、を、立、て、聞、え、ず、是、は、俗、に、腰、懸、る、

其、鋒、端、と、ある、は、劔、鋒、に、て、懸、懸、る、を、云、と、云、常、記、と、は、い、さ、熱、れ、は、書、紀、に、跗、坐、字、は、佛、書、に、も、結

跗、跗、坐、な、ど、常、に、云、て、阿、具、美、に、よ、く、當、れ、り、敷、と、股、上、阿、具、美、居、に、二、あり、組、た、る、足、の、末、を、膝、下、へ、